寄稿

会員のひろば

藤樹先生と私

吉村　啓一

この会に参加させて頂いていることに感謝致しております。今、改めて感じていることはこの地では藤樹先生は過ぎ去った方ではなく本当に現に多くの人たちの中に生き生きと暖かく生きていてその教え、思索の根幹、行った事が長い時を置いてなお広く普遍的に拡散し収束しているらしいという事実です。感動を覚える毎日です。

あの十七世紀　元和偃武が宣せられ時代の大きい流れは恒久の平和を指向。武を捨て　文を競わせることに大きく政策転換していった。一方で大名家の取潰し　減俸　配置換え、法度は厳しく参勤交代の制も定まる。朱子学を奨励しそれを精神的支柱として細かく支配体制を築いていった。与右衛門、その父と祖父はまさにその時代を生きた。今少なからず父吉次の存在と処士への志向　与右衛門への教えに様々感銘を覚える。あの大きいスケールの教養人の結局は体制の犠牲となった　須卜が十二歳の与右衛門に大学や論語を講じたのか。あまりに凡夫　小生は少しでもその知に近づきたいと思い静かに小川村近辺を、大溝城とその近接する山々を歩いた。山陰米子に、また伊予大洲をも訪れ少し滞在してみた。肱川の畔をゆっくり歩いた。対岸の富士山（とみすやま）に登り伊予の山並を大洲城下を感慨深く見た。同時代のフランスのデカルトの命題『われ思う。故に我あり』、シェイクスピアの劇作　ヨーロッパバロック美術をも藤樹先生はその中心的思惟の中で捉えていたのかもしれない。現代のヤスパースは深く王陽明に同調する。学ぶことはあまりにも多しと思する日々である。

※※※※※※※※※※※※※※※※

四十三年振りの大洲訪問

中村　仁

定年退職後、ロードバイクを始め全国各地を走るようになった。今回は『足摺・四万十チャレンジライド（高知県四万十市を拠点に、二月二十八日に足摺岬周回の百三十五km、翌三月一日は四万十川を遡る百四十二kmのサイクリング大会）』に参加・・・・十九歳の夏、二週間かけての四国一周サイクリング以来の思い出の場所である。

さて、二日間の日程を終え、大洲の町を訪問したのは、十一月から藤樹記念館で受講していた「孝経読破講座」の所以である。講師の中江彰先生にこの事を相談したら、直ぐに森永茂大洲藤樹会事務局長（元大洲小学校長）による案内を手配をして戴けた。大洲の町も四十三年振り～前回は、雨の朝、人気のない大洲城にある藤樹像の下で母校の校歌（二番）「♪近江聖人の植えおきし…」を大声で唱った（嗚呼、青春！）思い出がある。

大洲小の校訓
「良知に生きる」碑

三月二日朝、森永氏との待合せの間に、全校遠足日であった大洲小学校の子ども達から大声での「おはようございます！」をもらい最初の感激。大洲小学校、曹渓寺、大洲高校＝「邸址校」と呼ばれ、敷地内に邸宅址である「至徳堂」があり、校歌の一番が「♪近江聖人の跡とめし…」で始まる＝を訪問。藤樹関係の遺跡や資料が、単に保存だけでなく、今に活かされている様に重ねて感激する。大洲城は、二〇〇四年に天守復元大改修が行われ見事に整備されており、遠い記憶の中の苔生した古城の趣はなくなっていた。藤樹像も、その際に天守閣跡地から見晴らしの良い場所に移転していた～もしかしたら、新旧の場所を知る数少ない高島人かと、一人悦に浸る。その後、臥龍園、おはなはん通りなど市内おすすめスポット＋肱川上流を回って帰途につく。

祝
2014
ノーベル物理学賞受賞
とうじゅの教えでいじめを無くそう　知行合一

大洲高校の垂れ幕 - 中村修二氏ノーベル賞受賞お祝いと「とうじゅの教えでいじめを無くそう知行合一」

大洲城の中江藤樹像
手前は、生誕４００年記念『孝』碑

町中で『藤樹先生』が定着している様子に「もしかして高島市より大切にされ、深く慕われているのでは…」と気恥ずかしさすら覚えた。僅か3時間余りの訪問であったが、日をあらためて、ゆっくり訪れたいと感じた大洲の町であった。

※三月二十三日『しまなみ縦走２０１５』参加の帰途、岡山の「閑谷学校」を訪問。見慣れた「藤樹画像」・「致良知」と出会うことが出来たのも、その二日前の〝孝経読破講座〟の最終講義での中江先生のお話からであることを付記する（感謝）。